令和３年度　函館大学 一般選抜Ａ日程 試験問題

『国　　語』

※　解答はすべて解答用紙に記入すること。

【１】次の文章を読んで後の問に答えなさい。

大丈夫の気象は、山鹿素行が好んだ表現でいえば、「卓爾(高くぬきんでるさま)」たる気象である。彼の描いた道義的人格とは、①自己の情欲にたいし、あるいは世俗にたいし、さらには世のもろもろの事物にたいして、卓爾として立つことであった。素行はまた大丈夫的人格形成の具体的方法として、日々の一挙手一投足にいたるまで「威儀」を正すべし、と主張している。

威儀は、視聴・言語・飲食の慎みから、容貌・顔色・歩き方にいたるまで実現されねばならない。②威儀は礼の外に現れた形であるが、素行は威儀を正す時には、内面の徳性もしだいに養われてゆくという。職分を自覚し、人倫の道を自覚してその実現に努める武士は、日常のささいなことにおいても、威儀を崩してはいけないのである。

武士は矜持、すなわち自負を重視する。それは農工商にたいする場合だけでなく、武士相互間でも重要で、矜持を持ち③他者に後れを取らぬよう生きねばならない。威儀を正すことで形成される理想的な道義的人格とは、おごそかにして畏敬すべき、手本とすべき人格である。卓爾たること、おごそかにして畏敬すべき人格こそ、彼の理想の武士像であった。

武士たるもの、天下に道を実現せんと志すなら、臣として出仕し、主君の国を治め民を困苦から救うための政治を a ホサする以外方法はない。この出仕にかんする素行の見解は『山鹿語類』の臣道篇一・二(巻 13・14)に詳しい。 素行は武士の出仕の四つの型を挙げた。第一は「道を行わん」として仕える場合。この場合、天下国家人民のために仕えるのであるから、みずから進んで求めることなく、君主が敬をささげ、礼を尽くすのを待ってのちに仕えるべきである。第二は、必ずしも道を実現するためではないが、礼を厚くして招かれて、辞退し難い時に仕える。第三は、父母妻子を養うためやむなく仕える。第四は先祖より代々奉公してきたという由緒・条理をもって仕える、であった。

彼の出仕論はこういうものだから、出仕後の進退もこれに応じて決まってくる。とくに第一の道の実現のため出仕した者にあっては、たとえ与えられた地位が高く俸禄が厚くても、君に道なく、政治に法がなければ、これを度々 b 諫め、また全力を上げて身を修め、君が迷いを開き悟るのを待つべきであるが、④いよいよという際には、君子たるものそこに留まるべきではない。素行の士道論にあっては、理想的な出処進退とはこのようなものであった。

こうした素行がいうあるべき君臣関係では、『葉隠』的武士道論で重視される殉死(主君が死んだ時、あとを追って臣下が自殺すること)などは、批判・否定されるべきものである。主従の私的な情誼(交遊の情愛、親しみ、よしみ)的結合を超えた広い世界に目をやり、そこに道義を実現することこそ、大丈夫たる武士の任務だからである。

素行は儒学を林羅山、兵学を北条氏長から学んだ。氏長は、軍学から呪術を取り去り合理化を進めたばかりではなく、「士の法」「士の職分を完うするの法」を説き、治国平天下の大道、武士本位の武士のための教学に発展させた人物である。素行が士道論を体系化し、

武士のための倫理学・政治学を構築するにあたっては、氏長の教えに負うところが少なくないといわれている。

士道が武士として守るべき道の自覚を根本とするのにたいし、死のいさぎよさ、死の覚悟を根本とする思想の流れがあり、これが武士道で、代表する著作は『葉隠』（全 11 巻）である。編著者は佐賀鍋島藩の田代陣基(陳基)で、同藩の山本常朝の思想的な影響下に成立。巻一・二は、常朝が語った武士たるものの心構えを筆録したもので、享保元年(1716)の成立といわれる。『葉隠』の思想は、近世において極めて孤立した主張で、鍋島藩の藩校のテキストにさえなっておらず、幕末に藩の要職にある人びとの間で会読(二人以上の人が寄り集まって読書しあうこと)されたに止まり、佐賀県外に知られるようになったのは、じつに明治三九年(1906)以降だったという。近世での影響力という意味では無視してよいものであるが、近代への影響が大きく、また戦国時代が遠く過ぎ去った時代に武士がおかれていたディレンマをよく物語っているので、ここで取り上げる。

士道・武士道二つの道の、死にたいする姿勢を比べると、素行はつねに死を心がけているべきだといい、『葉隠』は「武士道と云は、死ぬ事と見付たり(武士道とは死ぬことだと発見した)」という。両者は一見同じ考えを述べているようにみえる。だが素行の場合は、武士としてなすべきことの前には、死をも避けるべきではない、武士として守るべき道の自覚を根底に踏まえ、その実現の前には死にもたじろぐべきではないと教えており、前提には、死すべき時は、あるべきあり方に則って正しく、また情況に応じて適切でなければならない、という発想があった。そうでなければ犬死(無駄死)になるからである。

ところが『葉隠』は、人は誰でも抜き難い生命への執着があるから、心の余裕があれば必ず「武士としてなすべきこと」などと理屈をつけて自分を偽り、自分の行動を正当化し、死なねばならぬ場面でも生きる道を選ぶものだ、という。そうだとすれば、人間は一瞬といえども自分にｃダラクへの余裕を与えるべきではない、結果は問題ではない、ｄ間髪をいれず死に突入する、またつねに死と密着し「死身(死ぬ気)」に徹すべきなのだ、と説く。「死狂(死を覚悟して、激しく戦うこと)」に徹する時、自分を恥から救い、忠も孝もおのずからｅソナわる。士道は理非正邪をあげつらうが、これはおのれの私心を飾り隠す理屈だ、死ぬことにおいてのみ純粋が保たれるのだ、ともいう。

士道と武士道は、主従関係のとらえ方においても大きく異なっている。主君にたいする諫言について、士道は諫言を容れず道を実現する可能性のない主君からは去れと説いた。これにたいして武士道では、諫言を聞き入れない時にも、いよいよ主君の味方になり、主君の悪が外部にもれないようにし、主君の悪をおのれに引きかぶりながら、諫言を続けるべきである、との積極的ニヒリズムとでも称すべき立場が主張された。武士道にあっては、主君・王家との契りは情誼的であり絶対的である。

この主家との契りの絶対性については、注釈が必要である。『葉隠』の時代にあって、戦乱の余風を残すものは「喧嘩」ぐらいしかない。喧嘩は、武士の社会で互いの名誉をかけて衝突する武力行使、紛争解決における私戦・私闘、つまり自力救済の発動である。喧嘩は、その原因が路上のいさかいからくるものであれ、政治上の意見の対立に発するもので

あれ、知行地の境界にかかわる争いであれ、およそ名誉を傷つけられたと感じるところから発生するもろもろの紛争を、武力で決着つけようとする行為である。

『葉隠』は喧嘩にあっても、⑤いや喧嘩だからこそ、究極「勝負を考えず」「無二無三(むにむさん)に(しゃにむに)死狂」することを求めた。しかし私戦は、主人にたいする奉公と矛盾する。私戦は藩の秩序を乱し、主君の御用に立てるべき命をいざ出陣の前に失わせてしまう。これは主君にたいする重大な［　A　］にほかならない。

近世では、みずからの判断にもとづいて紛争を実力で解決するのは、お上(かみ)(幕府・藩など政治をおこなう機関)を無視し軽んじる行為であり、とくに武器を使用しての集団間の喧嘩は反逆とみなされた。これによって武士以外の集団は、自力救済の手段である武器の日常的携帯とその使用を禁じられる(保持は黙認)。戦国時代以前と同様武装自弁の戦士であった武士も、勝手な戦闘行為が厳禁され、江戸の初期から前期にかけては、喧嘩した者は理非にかかわらず、双方ともに処罰するという喧嘩両成敗(りょうせいばい)の法(15 世紀後半に顕著となり戦国大名や統一政権によって法制化された。江戸時代に泰平が続くと法的には姿を消しても考え方は残った)の適用が残った。大名も幕府の命令なしに軍隊を領外に出せない。江戸の泰平は、［　B　］を極力抑えこむことで実現し完成する。

（高橋昌明『武士の日本史』より　ただし出題の都合上、表記法など改めた部分がある）

［語注］〇「大丈夫の気象」について高橋昌明は「大丈夫の気象とは、軽挙妄動しない、なにものにも屈せぬ強さ、万物をおおう気構えの広大さをさす」と説明している。 〇山鹿素行（やまが　そこう）：江戸初期の思想家　1622－1685。 〇積極的ニヒリズム：この世の虚無性、無意味性を認めたうえで、そこに生の悦びを見いだそうとする態度。ドイツの思想家ニーチェ（1844－1900）によって主張された。

問１　傍線部分①「自己の情欲にたいし、あるいは世俗にたいし、さらには世のもろもろの事物にたいして、卓爾として立つこと」とはどういうことか、その内容として正しいものを選択肢から選びなさい。

1　大きな野望をいだき、世の人々のはるか上の地位に立つこと。
2　自らの願望に正直になり、名誉と栄達を達成すること。
3　自分自身の欲望と世の人々の願望を一致させるようにつとめること。
4　自分自身の欲望の実現を目指すと同時に世の人々の願いも実現させること。
5　自身の情欲を否定して、世俗的な利益を捨てること。

問２　傍線部分②「威儀は礼の外に現れた形であるが、素行は威儀を正す時には、内面の徳性もしだいに養われてゆくという」とはどういうことか、その内容として正しいものを選択肢から選びなさい。

1　威儀とは礼儀作法の範囲外にある見栄えにすぎない、そうした威儀という虚栄を改めてはじめて心の修養がなされてゆく、と山鹿素行は考えている。
2　威儀とは礼義慣行におさまらない強さの表われなのだが、その外側に向う強さを抑えれば、内側の道徳心が発展する、と山鹿素行は言っている。
3　威儀とは礼の精神が目に見える形で表されたもので、まず外に見える威儀を正せば、精神も修養されると山鹿素行は考えている。
4　威儀とは礼節を外面に顕在化させたものだが、外面に正しく現われれば、内面もまた正しいと見なせる、と山鹿素行は説いている。
5　威儀とは礼法そのものの形であり、礼法が定まってこそ、道徳心がはじめて生じるのである、と山鹿素行は主張している。

問３　傍線部分③「他者に後れを取らぬ」とはどういうことか、その内容として正しいものを選択肢から選びなさい。

1　他者に背後を突かれてはいけない
2　敵に背を見せてはいけない
3　他人がやったことを後追いしない
4　他の人より劣っていてはいけない
5　他人から行為の遅さを揶揄されてはいけない

問４　傍線部分④「いよいよという際」とはどういうときか、その内容として正しいものを選択肢から選びなさい。

1　君主の怒りがおさまらなくなったとき
2　君主の迷いがどうしてもあらたまらないとき
3　君主がとうとう悟りに至るとき
4　君主に対する自分の忍耐が限界に達したとき
5　君主が自身のまちがいに気づきはじめたとき

問５　傍線部分⑤「いや喧嘩だからこそ」と言えるのはどうしてか、その理由として正しいものを選択肢から選びなさい

1　自分自身の名誉の問題だから
2　武力の強弱が問題にされるから
3　主君のことは考えなくてもいいことだから
4　自力救済にしか頼れないから
5　お上が関われない領域だから

問６　空欄 A を補う語として最も適切なものを、選択肢から選びなさい。

1　面従腹背　　2　滅私奉公　　3　不義不忠　　4　反逆行為　　5　大義滅親

問７　空欄 B を補う語を、本文中から抜きだして書きなさい。

問８　「士道」派と「武士道」派は相互に激しく非難し合ったというが、それぞれの非難の要点をそれぞれ 45 字以内で説明しなさい。

問９　傍線部分 a ～ e について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで記しなさい。

【２】以下の２つの資料を読んで、問に答えなさい。

資料１．大学生Ｓのブログ

大学生Ｓのブログ

ここが変だよ、地産地消

皆さんは「地産地消」という言葉を聞いたことがありますか。地元で生産した食品を優先して食べましょうという運動です。小学生の頃から地産地消は大切だと言われていたので、地産地消は無条件で良いことだと思っていましたが、最近少し考えが変わってきました。

きっかけは、大学の授業で勉強した、18～19 世紀の経済学者リカードの比較優位説という理論です。これは高校の公民でも少しだけ触れられていましたので、短く説明させてください。

・各国は、自由貿易を推進する
・各国は、自分の国が得意な産業に特化し、輸出する
・各国は、生産性が向上し、品質も良くなる

例えば、工業製品を輸出して、食料を輸入しているような国は、工業製品に特化すればするほどよいということになります。

地産地消というのは、リカードの比較優位説とは逆の概念なのではないかと思います。外国産の牛肉の方が安くて、味が同じくらいなら、わざわざ地産地消などと言って地元産の牛肉を選ぶのは、合理的ではありません。非合理的な消費者が増えれば、社会の発展は妨げられてしまいます。私たち消費者には厳しく品質や価格を見る責任があります。本当に魅力があり、日本全国の人が欲しがり、海外に輸出することもできるようなものでなければ、応援するべきではないのです。

例えば、海外への輸出が増えている食品といえば牛肉です。和牛が「ＷＡＧＹＵ」という英語になっているくらい人気です。こういう魅力的な食品は、高く買ってくれる市場に出すべきで、それは往々にして大都市や海外です。地産地消にはなりません。

ペットボトルの水はどうでしょう。地元産のミネラルウォーターを探すのはなかなか大変ですが、国内大手メーカーや海外メーカーのミネラルウォーターはコンビニで簡単に見つかります。地元産のミネラルウォーターを地元の住民が少しくらい買ってあげたとしても、大企業との競争に勝てるとは思えません。大企業が安くて優れた品質のミネラルウォーターを供給しているのに、各地でミネラルウォーターを生産することに意味はなく、無駄な努力と言わざるを得ません。

品物の生産地ではなく、どこで買うかという観点からも、地元で買おうという運動には私は疑問を感じています。地方でもこれだけ便利に買い物ができるようになったのは、私たち消費者が合理的な選択をして、ネット通販が成長したからではないでしょうか。確かに地域のお店はつぶれていくかもしれませんが、その分ネット通販がさらに発展しますので、消費者の利便性は向上するはずです。厳しい言い方になりますが、時代遅れの地域のお店は早く淘汰された方がいいのです。

そもそも、地産地消の「地」とは何を指すのでしょうか。市町村・都道府県のような行政単位を指すのか、さらに広げて国家単位なのか。

私の持っている iPhone にはこう刻印されています。

Designed by Apple in California. Assembled in China.

アセンブルとは「組み立てる」という意味です。中国で組み立てられてはいますが、iPhone に使われている部品や、ソフトウェア、特許などを含めれば、様々な国が関係しており、それらが組み合わさって、一つの優れた製品を生み出し、世界中で使われています。

iPhone は地球全体で協力して作り、地球全体で使われています。「地球産」「地球消」という大きなスケールで考えるから、優れた製品が生み出され、私たちの生活は便利になっていくのです。それに対して、単なる「地元ファースト」の地産地消は、グローバル化した社会にあって、あえて自給自足的な不便な生活を目指すような矛盾を抱えていると思います。

みなさんはどう考えますか。自由にコメントを残していってください。

資料２．大学生Ｓのブログのコメント欄

A さんのコメント
　S さん、こんにちは。まったく同感です。Globe（地球）で、「G 産 G 消」の方が社会はよくなります。

B さんのコメント
　牛肉をアセンブルすることはできないと思います。

C さんのコメント
　S さんは、自由貿易が貧しい国の産業の発展を妨げているとは思わないのだろうか。

D さんのコメント
　一理あるけど、大企業があればいいという発想には、私は少し違和感あります。

E さんのコメント
　長距離輸送して食料を輸入し、大量の食品廃棄している現代って、地球にやさしくないよね。リカードって人はそこのところ、どう考えてたんでしょうか。

F さんのコメント
　私は地元企業のミネラルウォーターを買ってます。安心だし、口に合うから。

問.　S さんの意見に対して、賛成・中立・反対いずれかの立場を明らかにした上で、自分の考えを含めて 200 字以上で記述してください。なお、コメント欄に書き込むような文体で記述して構いません。